No88　　生活単元学習の実例

2021年12月24日作成（2024年12月20日一部改訂）　　**義髙　亙**

○生活単元学習の課題

1990年頃千葉大付属に通い生活中心主義と教科中心主義の論争に参加しました。それは別項目（20　生活中心主義と教科中心主義）にのせています。

その時に教科中心主義の先生方から出た疑問が、生活単元学習への疑問でした。理論はともかく、実際に安きに流れて学習の意味をなさない、という危惧があるようでした。

私は生活単元に二つの具体的な目的を持って主張しました。

①現在の社会生活に対応できるようになる

②社会で価値ある事ができるようになる

この考えを基に取り組んできた先活単元学習の例をいくつかあげます

参考資料があるのでご覧ください。

①現在の社会生活に適応できるようになる学習

自ら移動、買い物、連絡ができるための生単など

以下の三つの項目に詳細を挙げます。

29　通学学習　28　作業所　たんぽぽ石鹸つくり

48　生単　買い物通学電話

②書けない文字が書け、描けない絵が描ける生単

以下の三つの項目に行った具体例を挙げます。

別資料33 ワープロ AI01　34 ワープロ発展02　35 うごけらくがき

③音楽に合わせて体を動かす

生単ではないが　音楽として以下の別項目にあげます。

別資料　21 音楽リトミック

これらは別資料にありますので参考にしてください。

○1990年代に学校で取り組んできた生単

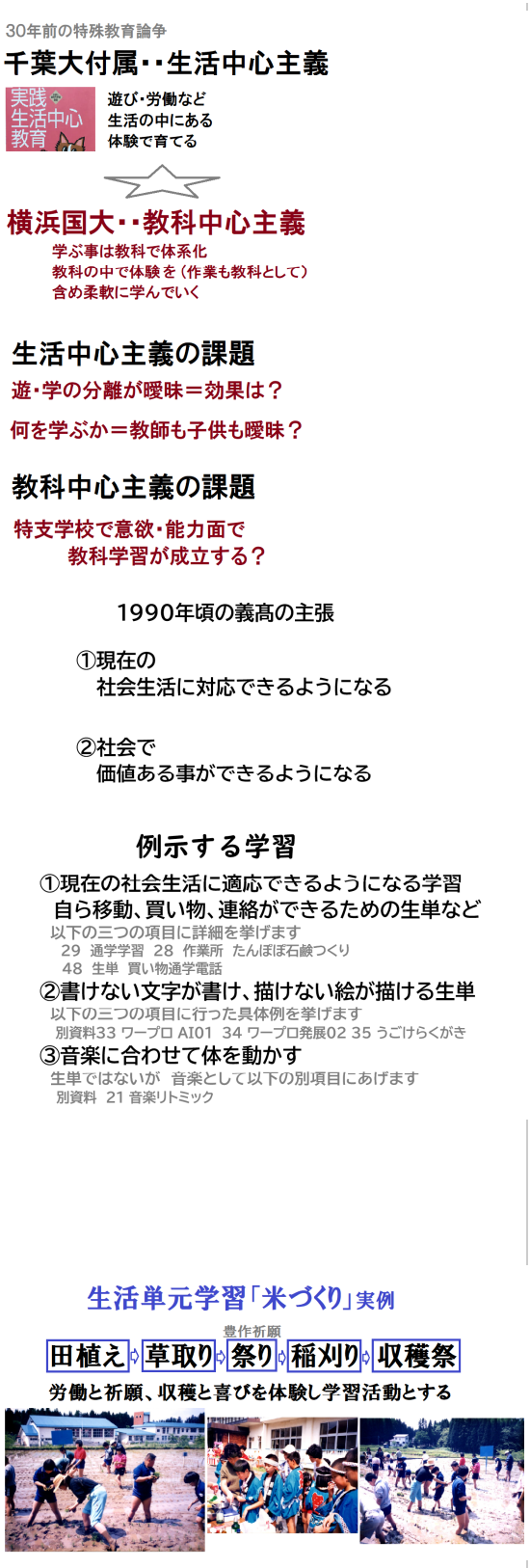
この他に1990頃に私達が養護学校小学部全体で取り組んできた生活単元学習を紹介します。

④米作り生単

1980年代はまだ稲作で生計を立てる家があり、田植え、稲刈りは親戚が集まり共同作業をする場でした。義髙も家内の実家が専業農家であったので、何度か参加したました。一部機械が入れない耕作地での手作業も存在しました。

米づくりは田植え、草取り、稲刈りなど、田んぼでの重労働が含まれます。田植え草取りを行い、稲刈り前には、豊作を願って祭りをする。これを学校で体験し、地域に戻ってもその活動を理解し、参加する学習です。

近年祭りだけを行う社会になりました。祭りだけの活動は余暇やレク



レーションとしては有り得ます。しかし学習としては、田植え稲刈り活動をしてこそ生単をする意義があります。当時、私たちが行った学校での稲作作業の写真があります。
私も小学部の子どもたちと真っ黒になり大汗を描いて田植え稲刈りを行いました。

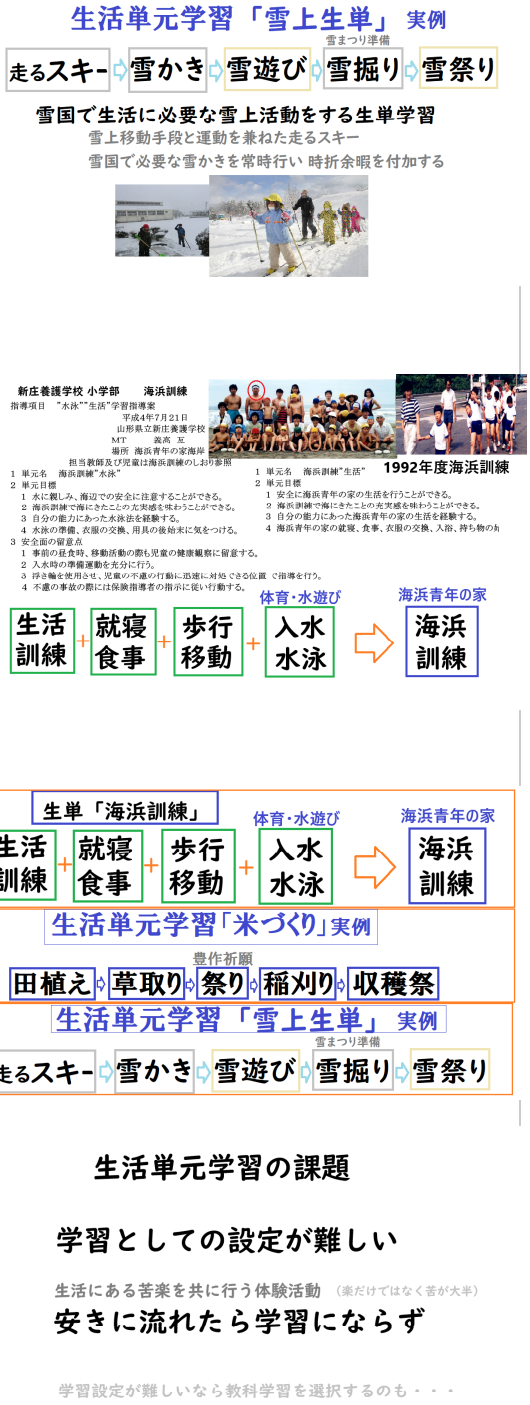
⑤雪上生単

山形県は雪国で、雪上の労働や苦労は必須です。雪の移動と冬季の運動のため、走るスキーと雪かきを体験し、雪の喜びにも触れる学習です。それは小学部を担当した時に行った一連の雪上生単でした。雪国という社会や雪上労働に適応する活動を行うことが生活単元学習の目的でした。

⑥海浜訓練

１９９０年頃、まだ新庄養護学校に学校専用プールがありませんでした。小学部では遊佐町にあった海浜自然の家で海浜宿泊訓練を行うことが一大行事でした。
海浜青年の家の訓練プログラムに参加してくる。これは生活訓練が必要です。着替え、移動、食事用意に片付け、通常の小中学生と同じ海浜訓練です。その中に水遊びが含まれました。中庭に大きめの特設プールを設置して、水に親しみ、慣れて海浜訓練にも備える。その為の水遊びという位置づけでした。なんとか海浜青年の家の訓練に参加し、海での活動が事故無く、安堵して学校に戻った記憶があります。

○課題

生活単元学習は簡単そうに見えて、学習意義がある活動を仕組むのが難しい学習です。安きに流れたら学習になりません。私が養護学校小学部時代に行った生単を紹介しました。時代の流れで生活も変化します。田植え稲刈りなどは生活で行いません。学習としても無くなるものかもしれません。ですが、苦楽を共に体験する学習活動です。汗をかき苦労する大部分を無くして、遊ぶことだけ残すのであれば、それは学習でなくレクレーションになります。
学習設定が難しいのであれば、教科中心に学習を行うのも選択の一つかもしれません。

END